

会 議 録

1 会議名

平成29年度 第6回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）地域協議会会長会議について（公開）

（2）平成29年度地域活動支援事業の実績報告等について（公開）

（3）地域活動支援事業 募集要項及び審査採択の基本的なルールについて（公開）

（4）自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について（公開）

3 開催日時

平成30年1月18日（木） 午後6時29分から午後7時58分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第2・3研修室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：水澤俊彦（会長）、橋本 勲（副会長）、秋山澄子、有坂正一、泉 幸雄、
市橋邦夫、植木泰行、高橋善昭、土屋史郎、前川正治

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、槇島係長、小林主事

8 発言の内容

【槇島係長】

・岩澤委員、笠原委員、小林委員、平原委員を除く10名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は水澤会長が務めることを報告

【水澤会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：有坂委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

—地域協議会会長会議について—

【水澤会長】

次第3報告（1）「地域協議会会長会議について」に入る。

11月21日に地域協議会会長会議が資料No.1の次第のとおり開催され、私が出席したので、報告する。

私は、会長会議は2度目。28の地域協議会でどのようなことをしているかわからないので、いろいろな話を聞きたいと思っていた。

まず、平成30年度の地域活動支援事業の概要は、予算が通っていないこともあり説明はなかった。

自主的審議の活性化に向けた意見交換では、制度と各区の取組状況の説明の後、意見交換をした。

資料No.1の2ページのとおり自主的審議をしており、各区では3ページのとおりテーマを出して取り組んでいるということだった。

当地域協議会も、「①雪を生かした地域づくりの推進について」「②住民組織の充実と地域活性化について」を審議テーマにしている。

私の意見を言う場もないくらい活発に発言する方が多かったが、地域協議会の現状報告ばかりで、本来の自主的審議事項の取組状況について発言した方は非常に少なかった。

当然、抱える課題やどのようなことを話しているか聞きたい。この自主的審議ということのをどのように皆さんが捉えているか、会議の中で各区の話を聞いたが、なかなか理解できなかった。

各地域協議会では、地域の皆さんがいろいろな地域の話をし、少しでも課題を改

善できる解決策を見いだせるか検討していると感じた。

ただ、合併前上越市と13区で違いを感じた。13区では地域協議会だけでなく、組織だって、いろいろな組織と連携していると感じた。

私たちの地域については、これから地域をどうするか、どう考えていくかということ、委員の中でじっくり話し合いながら、解決に向けて進めていけばよいのかなと思った。

時間が足りないくらい、いろいろな話があった。28区のいろいろな問題や、市、行政への要望があると思う。これもまた回数を重ねるうちに、良い方向に向いていくのではないかと考える。

これについて質疑を求めるがなし。

—平成29年度地域活動支援事業の実績報告等について—

【水澤会長】

次第3報告(2)「平成29年度地域活動支援事業の実績報告等について」に入る。
事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.2により説明。

【水澤会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—地域活動支援事業 募集要項及び審査採択の基本的なルールについて—

【水澤会長】

次第4議題(1)「地域活動支援事業 募集要項及び審査採択の基本的なルールについて」に入る。

事務局に説明を求める。

【榎島係長】

当日配布資料No.1、資料No.3、4により説明。

【水澤会長】

先般、採択の基本的なルールについて意見を議論し、最終的に変更なしとなった。

募集期間は、29年度は5月の連休明けまでだった。事業を早く進めるためには審査採択を早めるということで、30年度は連休前に締め切ることにしたい。これにより5月の早いうちに審査採択し、事業をスムーズに始められると思う。

事務局の説明について質疑を求める。

【泉委員】

約10日前倒しになる。応募する立場に立つと、検討期間が短くなる。地域の皆さんへ募集要項を周知徹底する時期を早められるか。予算の関係もあるが、どのように周知していくか。

【榎島係長】

例年、4月1日号の広報上越と一緒に募集要項を配布している。これは予算成立との関係があり、早めることはできかねる。

毎年地域協議会だよりを、3月1日号の広報と一緒に配布している。ここに、募集期間を今年から早めたことを記載する。また、3月15日に地域活動支援事業説明会を兼ねた活動報告会を開きたいと考えており、そこでも募集期間についてお知らせしたいと考えている。

【泉委員】

なるべく早く、周知徹底を。

【水澤会長】

最後のページの予算額については、人口比率によるので、たぶん今年度と同じ額になるだろう。大きく増えたり減ったりしているところは影響が出るだろうが、まずはないと思うので。ただこれについては決定後に数字が入るということでご理解いただきたい。

他に質疑を求めるがなし。

来年度の和田区における地域活動支援事業の募集要項、募集期間、審査採択のルールは資料のとおりとしてよいか諮り、委員全員の了承を得る。

—自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について—

【水澤会長】

次第4議題（2）「自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について」に入る。

前々回の会議における委員の発言概要を、前回会議で資料No.2に整理し配布した。その2ページ目からの「2. 議論の方向性」について再度確認をお願いしてある。

そろそろこの雪について、ある程度まとめに入っていかなければいけないと思っている。この後、どのような方向で着地させればよいか。

今日は、そのような形で意見を求める。まとめに入る方向で、どのように進めたらよいか意見を求める。

【有坂委員】

雪を利用すること自体、まだ私の中ではピンとこない。今までいろいろな意見が出て、百花繚（りょう）乱という感じも見受けられなくもない。

どのような方向に進めていくか、今、考えがまとまっていない。

【土屋委員】

私は前から、イベント型がよいのではないかと思い、発言してきた。

雪室などの話も出ているが、来月3日、4日とレルヒ祭があり、金谷地区と本町通りがタイアップしているようだが、そのようなものに参加して旧高田の回遊型のイベントに持っていけないかと。せっかく上越妙高駅前にフルサットの商店もあるので、参加してもらうなり、そのような感じで。

ただ、具体的にどのように進めるのか、私には分からない。誰かに依頼するのか、このメンバーであるのか、今のところ考えが浮かばない。

私は、イベントからするのがよいと思う。

【市橋委員】

非常に難しいと思う。我々も一緒に協力していくが、やはり地域にさせていただくように。例えば、和田地区振興協議会などの人たちに一緒に入っただき、土屋

委員が言われたレルヒ祭などのイベントの中に、振興協議会やPTAの方たちも取り込んだ組織を作り、何かをしていかないと前へ進んでいかないのではないかと。

今は無理でも、来年の。雪は毎年降ると頭に入れ、レルヒ祭などで回遊してもらうのは方法としてよいのではないかと。

【秋山委員】

私もよくまとまっていないが、土屋委員や市橋委員が言われたように、一番手っ取り早いのはレルヒ祭に参加するような形で、何かできることはないかと思っている。

雪室はそれ自体が大変。まずはイベントに参加し、地域の子ども会などにお手伝いいただく形を取れば、少しは雪を利用できるのではないかと。

【高橋委員】

回遊型イベントも非常に魅力があると思うが、果たしてこの地区に回遊したお客さんが来てくれるのか考えると、まずはこの地域単独でイベントを開催し、そこにどのくらいの人に来てくれるのかを把握してから、回遊型イベントの中に組み入れてもらうような取組をしていけばよいと思う。

【水澤会長】

地域を活性化する意味だったり、地域の人たちが参加することの意義だったりすると思う。当然、各地域で開催しているいろいろなイベントとタイアップするのはよいと思う。

【土屋委員】

せっかく広大な釜蓋遺跡公園があるので。あんなに素晴らしい場所は他にはない。駐車場も完備している。駐車料金を安くしてもらうように交渉が必要だが。シャトルバスを、金谷山、本町と回しておけばよい。

【前川委員】

これまで検討してきた中で、委員の雪に対する意見を聞いていると、私もこれは実際にすべきことだと思うし、どういう形であるかという方向で進めていった方がよいと思う。

例えば、先ほどから出ている各種イベントに参加する中で、和田地区を盛り上げ

るような形が手っ取り早い。

雪室も、JAの取組を見ていると家庭でできる簡単なものもあるようだ。今回、すぐにできるかという、なかなか難しいかもしれないが。

雪を生かしたものでは、例えば子どもから雪灯ろうを作ってもらい、お客さんに見せるなど、そのようなことを各種団体の皆さんから協力してもらい、和田区を盛り上げるという方向で少しずつしていった方がよいと思っていた。

3月6日に、上越妙高駅の3周年記念で上越市民号を出す話もある。そのようにいろいろな人が出はいるりする中で、和田区が雪を使って歓迎するというのも、イベントとしてよいのではないか。

【泉委員】

前回までは雪室が先行していたが、今回は雪室を断念するという話になっているようだ。雪室をすること自体、大赤字で私も若干無理があると思っている。

今の話で回遊型と言うが、セットにしたとしてもこちらへ来る人がいるのか。あるいは、どこが主催しているか分からないが、そこから断られても困る。相手がある話なので、ここで決めてしまうわけにはいかない。そうなれば、和田地区独自となる。

私たちだけで決めて「しよう」と言っても、「あなたたちは関係ない」と言われればそれまで。もっと違う場所で一つひとつ議論していかないといけないだろう。

では、今話したように我々独自で、この地域のいろいろな団体と協力して何かするかと。開業当時に雪灯ろうを作ったようなイベントをするというのものもある。どう進めていけば良いのか、私にも判断できない。

金谷山と本町へ行き、けんかして対抗してまで何かするのか。

逆に和田地域独自でするのであれば、昔の菰（こも）を被って跳んで歩く、蓑（みの）を被ってかんじきを履いて跳ぶと、鎌倉時代に戻るイベントに持って行くのかどうか。

そのようにしていかないと、レルヒ祭とセットにしては勝てない。レルヒ祭は半てんで、こちらは蓑（みの）、笠（かさ）ですというような独自色を打ち出せるかどうか、非常に重要だと思うし、相手のいることだからもう少し検討しないとい

けない。

【植木委員】

いろいろな意見があるが、新幹線開業の準備段階から取り組んだ雪灯ろう関係を、もう少し継続して実施できれば、新幹線駅前の冬期間のPRになるのではないかと感じる。

これをイベントとして実施できるかどうかの検討を。私たちが直接するのではなく、振興協議会などの力を借り協働して灯ろうイベントを実現できればよいと思う。

【橋本副会長】

雪を利用するに当たり、独自で何かをするときにいろいろな分野の方に協力をいただく。

例えばどのように実行するかという問題点は、実行委員会のようなものを立ち上げ、その中で今出ているいろいろな意見を昇華（消化）してもらおう。話しに出たいいろいろなイベント、雪灯ろうイベントもこれまでたくさん開かれているので、それに協力したり、逆に教えてもらったりして、そのようなものを元にしたイベントをしていったらよいのでは。そのようなことを検討してもらおう。そろそろそのようなまとめ役を作った方がよいのではないかという気がする。

因みに雪室の話があり、私が聞いているところでは、ある企業が3月半ばから4月にかけて雪室自体を駅の前に作るという案も出ているので、それに関連付けて何かできればよいのではないかと。

いずれにしても、独自にというよりは既に定着しているイベントと連携した形ができればよいという感じである。

【水澤会長】

いろいろな意見が出たので、まとめる。

今まで雪室とイベントに関し、いろいろな意見が出た。

雪室については、いろいろ感想があったように、規模的に、また専門的な部分もあるので、私も難しい部分があると思う。

雪室貯蔵に関し、先般ゆきだるま財団のチーフスノーマンの方とフルサットでお会いしたのだが、今日あたりフルサットに雪を入れるコンテナが入るそうだ。今、

雪があるうちに、そこに除雪機で雪を入れるという。先ほど3月という話だったが、すでにもう始まるようだ。

これに関し、平原委員からも構想を聞いた。商業ベースで実施する部分もあるので、今日の議論とは別にしておく。ただ、駅周辺にあるということで、いろいろなアピールはできると思う。

話があったレルヒ祭、それから開業時に実施した灯の回廊。これは旧東頸城地区で始めた灯の回廊を何年かしており、牧区と。

【秋山委員】

牧区、浦川原区、安塚区。

【水澤会長】

大島、浦川原、安塚、牧区と来て、高士地区も2年前から始めた。

これと連携しなくても、新幹線開業の時に開いたようなイベントを工夫しながらできるのではないかと思う。

イベントを立ち上げるにしても、どのようにしたらよいか、皆さんはなかなか難しいと思っている。この地域のどちらかの団体が頭になり、地域活動支援事業に手を挙げて実施すれば、来年の今頃はそれができているのかなとも思う。

私たち地域協議会が母体となった事業提案はできないが、私たち委員が課題を出し合いながら雪について話をしてきたので、もしできるのなら提案団体となる実行委員会のようなものを立ち上げ、そこにいろいろな地域の団体を取り込み、イベントをすることは可能ではないかと考えた。

私たちが雪というテーマで考えてきたことを一緒になって実現するためには、時間がなかなかないかもしれない。30年度に事業提案していくためには、今年度中にスタートを切って計画しなければならないと思う。

釜蓋遺跡公園というスペースがある。皆さんも、そのような所でないとできないと思う。実行委員会形式で何かイベントをする、そのような形で進めていくことでのいかがか。

私たち地域協議会委員が言い出しっぺなので、時間もないが実行委員会形式をとり、少し前へ進めていく。

【泉委員】

それはよいと思うが、独自ではなく、中山間地域を中心に広がってきたものと同
時開催したらよいのではないか。市全体の灯の回廊の中の、釜蓋遺跡の回廊と。

そうすると、ろうそく代くらいは必要になるから、今度は早く話を進め、誰が立
案し補助金申請するかという話だと思う。

【水澤会長】

今、現実に開催している地域があるので、それを真似て、一緒に教えてもらいな
がらすれば、できることなのかもしれない。

30年度の地域活動支援事業に提案するには、年度内に準備し4月に入り計画す
れば、来年の灯の回廊の時期、2月20日前後には。

新幹線開業時に、和田地区振興協議会が関わって東口で行われたものを覚えてお
いでだと思う。ここで、灯の回廊の資料を配布したい。

あれは今、ホテルが建設されている東口バスターミナル北側あたりの。

【秋山委員】

東側の北の方。

【水澤会長】

そこに実際に2,015個の雪灯ろうを作った。今は、東口にはスペースがない
が、釜蓋遺跡公園では開けるだろう。

【有坂委員】

釜蓋遺跡公園は、申請すれば使えるか。

【水澤会長】

夏に、オクトーバーフェストが開かれた。もともと高田公園で開かれていたもの。
お酒を飲むのも音楽のイベントでも、問題ない。

【有坂委員】

遺跡としてこれから発掘する部分も含め、全体が公園になっているのか。

【水澤会長】

全部だろう。

【有坂委員】

今話している、公園を活用するというのは、発掘部分ではなく建物や駐車場のスペースを使うということか。

【水澤会長】

これから、大きさがどうなるかということもある。

【市橋委員】

道路の脇に公園がある。

【水澤会長】

芝生が植えてある。

【有坂委員】

その部分だけで、発掘する場所は除いて考えるということによいか。

【土屋委員】

公園だから、そこもよいのではないか。高田公園の三重櫓（やぐら）の所でも灯ろうを作っている。

【水澤会長】

聞いてみないと分からない。ただ、例えば積もった雪を踏み固めれば多分使えるだろう。

【土屋委員】

夏だったらだめだろうが。

【有坂委員】

まず活用できるか、確認した方がよい。

【水澤会長】

そうですね。

この灯の回廊、これは今年のパンフレット。2018年2月24日（土）、安塚区「安塚キャンドルロード」、大島区「大島雪ほたるロード」、浦川原区「うらがわら雪あかりフェスタ」、牧区「まき深山のともしび」、高士地区「高士ルミネ」、名立区「不動ミニキャンドルロード」と、このように6地区で開いている。

【秋山委員】

この6地区もだんだん増えてきたのだろう。

【水澤会長】

そのとおり。

同時に始めたのではなく、最初は安塚のキャンドルロードから始まった。各地区でいろいろなキャンドルがある。

【秋山委員】

きっと、その地区その地区でやり方があるのだろう。

【水澤会長】

何か少し見えてきたらどうか。

【土屋委員】

大島区から上越妙高駅までつなげればよいのだろうが。

【榎島係長】

資料は、一枚ものは今年のもの、二つ折りのものは昨年パンフレット。

【水澤会長】

昨年は2月25日、やはり土曜日。各地区のシャトルバスがある。勉強不足だが、私は実際には見ていない。皆さん行かれたことはあるか。

【有坂委員】

前の週か当日か、牧の道路で作業しているのは、見たことがある。

【水澤会長】

深山のともしびか。

【有坂委員】

深山ではない。深山はかなり奥に入るが、その手前の小学校の下から沖見へ行く道路があり、その周りで作業をしているのは見たことがある。

【秋山委員】

私は実際に行って見た。

【水澤会長】

どこか。

【秋山委員】

浦川原から安塚を見てきた。早く行かないと全部を回れず、私は夕方から行った

ので、そこまでだった。

【有坂委員】

これだけたくさんあると、やはりみんな見るのは難しいのか。

【秋山委員】

難しい。そしてみんな車で行くから混んで一寸ずり。

【有坂委員】

渋滞する。

【橋本副会長】

でもやはり夜でないと。

【秋山委員】

そのとおり。やはり夜でないと、

【泉委員】

夜じゃないと点灯しないから。

【有坂委員】

たぶん昼間は作業中である。

【水澤会長】

時間は15時から21時まで。

【秋山委員】

午前中に行くと一生懸命作っている。

【有坂委員】

その日に作って、その日に点灯して、

【泉委員】

作り方はいろいろある。このように作らなくても、沿道の雪壁に穴をあけて入れるなど。

【秋山委員】

沿道はみな穴を開け、その中に。

【前川委員】

余計な心配だが、雨風になったらどうするのか。

【秋山委員】

去年は安塚の下では雪が少なく、かろうじて作ってあった。物産館の先、一番上まで行くと雪が多くいろいろな形のものが作ってあった。

【前川委員】

風が吹いても消えないようにしてあるのか。

【秋山委員】

一応、きちんとなっていた。

【有坂委員】

風向きがよければ。悪ければたぶん消えてしまう。

【秋山委員】

たぶん消えてしまう。

【有坂委員】

除雪で雪の壁になった場所は、スコップで穴を開けてろうそくを置く、一番簡単なパターン。

【泉委員】

葬式の時に使う、消えないろうそくを使うのだろう。

【水澤会長】

これは専門の業者から、まとめて買うらしい。

【有坂委員】

カップに入っているもの。

【水澤会長】

いろいろ思いも膨らんできたようだ。どうだろうか、せっかく勉強してきたので。時期やどのようにするかということは、実行委員会を立ち上げて進めて検討した方が。

【有坂委員】

実施するなら、これとタイアップした方がよい。時期をずらしては意味がない。

【水澤会長】

どうだろうか。実行委員会を立ち上げ、地区の団体を取り込み進めていくような

方向で行くとしても。もう2月で準備も進みスタートする段階だと思う。2月末になれば、資料をもらい同じような形でできるか検討できると思うが。

どんな方向で行くか。

【橋本副会長】

そういうことになるいろいろな案が出てくると思う。それをどこかでまとめ、先へ進めるようにするという形を、是非取ってほしい。

何をしたいか、どのようにするかということは、その形ができあがってから詰めた方がよい。あるいは、皆さんに意見をもらう方がよいのではないか。

【市橋委員】

和田地区振興協議会とは、そのような話ではできないものか。

【水澤会長】

町内会長会が主体になっている組織だから、できるのではないか

【市橋委員】

地域協議会の中で今このような話が出ている、来年に向けてそのような組織を立ち上げたいから協力してほしいと。

そのように何かがないと。ただ我々でああだこうだと話しているだけではうまくいかない。

【泉委員】

であれば、和田地区振興協議会会長に。

【水澤会長】

そのとおり。

和田地区振興協議会という組織、団体があるので、そこをお願いして頭になってもらい実行委員会を立ち上げてもらう。そこに委員の皆さんも入ってもらうことは可能だと思う。

そこに他の団体も、共催や後援という形をとることもできる。せっかくなので、いろいろな人を取り込んで、一緒にすることは大事だと思う。

【橋本副会長】

そうでなければいけないのではないか。

【水澤会長】

そのために今取り組んでおり、それが主。それが、和田区の活性化につながる。

【橋本副会長】

前川委員は以前イルミネーションの関係で、同じような経緯で実施主体となる実行委員会のようなものを作り参加していたと思うので、よろしければその流れを紹介してほしい。

【前川委員】

私たちが立ち上げた経緯は、最初は仲間6、7人、女性が多かったが、その中で話すうちに地域のために何かをしようということで、おひな様の話が出た。それなら、きちんとした名称を付け組織にして取り組んだらどうかということで、地元駅が開業する時だったので駅名を入れて、「大和2丁目・上越妙高駅と共に歩む会」を立ち上げた。最初は6、7人だったのが募集していく中で50人近くになった。それが今ずっと続いている。

上越妙高駅を活性化するために何をしたらよいかというのが、最初の発想。そのために何かをしようという人が集まり、まずはおひな様を飾り、乗降客や地域の方楽しんでもらうというのが、最初のいきさつ。

和田区では、和田地区振興協議会が一番大きな組織であり、その中心になる町内会長会の人たちから、中心になってもらうのが手っ取り早いと感じる。

【水澤会長】

去年のパンフレットでは、主催は上越市と各地区の実行委員会、安塚キャンドルロード実行委員会、大島雪ほたるロード実行委員会、等の実行委員会。後援に上越観光コンベンション協会やキューピットバレイ等。

【前川委員】

とにかく実行委員会を作る。

【水澤会長】

そうですね。そこにいくと、和田地区振興協議会が中心になってもよいと思う。

実行委員会が地域活動支援事業を提案するというのは、問題ないか。

【榎島係長】

問題ない。

【水澤会長】

この各地区実行委員会も、地域活動支援事業に事業提案しているのか。

【榎島係長】

確認は取れていない。

【水澤会長】

その予算でできるかどうかというものもある。いろいろな事業所が、協賛や寄付をしていると思う。

駅イルミネーションの時も、地元企業からの寄付等でかなりの金額を集めた経緯もあり、事業費の一部にこの補助金を充てているわけである。

どうだろうか、いろいろ話が出たが、実施するなら実行委員会を立ち上げるところからスタートしていったらよいと思う。

実行委員会の立ち上げに当たって、委員の皆さんで我こそはと思う方がいればスタートが切れると思う。全員でもよいと思うが。

【泉委員】

まず、地域協議会の会長、副会長だろう。

【水澤会長】

分かった。

まずは地域協議会として、実行委員会を立ち上げたらどうかという話があった。そこで、実行委員会を立ち上げるに当たり、私と橋本副会長から和田地区振興協議会に対し、母体になってもらったらどうかという提案を話したいと思うがよいか。

【橋本副会長】

振興協議会には、いろいろな団体が入っているか。

【水澤会長】

町内会長会が主で、商工会も。

【橋本副会長】

すると、例えば会長が声をかけた時に、希望的観測だが、どの部門の方が分からないが趣旨を分かっていたら、手を挙げる方はいると思う。

あとは、やはり地域協議会の委員が、人数は別としても参加しておいた方がよいと思う。

【水澤会長】

「雪を」というテーマで取り組む、スタートの発端になる。

では、取りまとめたい。私たちが自主的審議事項として取り上げてきた、「雪を」というテーマの結果をしっかりと出さなくてはならないということで、名称は別にせず実行委員会を立ち上げるためのスタートを切ろうと。

私から振興協議会へ提案し、次年度30年度の地域活動支援事業の提案に間に合うように進めていくことを諮り、委員全員の了承を得る。

では、そこに委員も参加するような形を取っていきたい。この形のとりまとめで、流れに関し問題はないか、よいだろう。次の会議では、具体的なことを発表できればよいと思う。私の方でも動いていきたい。

—事務連絡—

【水澤会長】

事務局に事務連絡を求める。

【佐藤センター長】

- ・ 次回の日程：3月15日（木） ラーバンセンター
 - 18：30～ 活動報告会・地域活動支援事業説明会
 - 19：00～ 第7回和田区地域協議会
- ＊活動報告会は委員の出席は任意とする。
- ・ 地域協議会だより3月1日号発行予定
- ・ 地域協議会だよりへの委員寄稿文が2巡目に、テーマは「思い出いろいろ」
- ・ 配布資料

創造行政研究所ニュースレター「創造行政」

ウィズじょうえつからのおたより

【水澤会長】

先ほどの実行委員会の件に関し、地域団体、和田地区振興協議会との話を進めたり、灯の回廊の各地区実行委員会の資料を集めたりして、実行委員会立ち上げの準備を進めることについて、私と橋本副会長へ一任することを諮り、委員全員の了承を得る。

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。